

【人材の養成に関する目的】

■理工学部

基礎教育を重視するとともに、伝統的な区分にとられない学際的な専門教育を充実させて、急速な技術革新、自然との共生、持続発展型社会の実現等の現代社会が抱える多くの複合的な諸問題に果敢に取り組める幅広い素養を持った人材を養成することを目的とする。

■システムデザイン学科

機械工学、電気電子工学、ロボット工学、経営工学を横断する複合専門分野を系統的に教育するとともに、プロジェクト型科目において理論を実問題に応用する鍛錬を積むことによって、社会に溢れる解答が一つでない問題に対して解決策を立案し、実現できる人材を養成することを目的とする。

【ディプロマ・ポリシー（DP）】

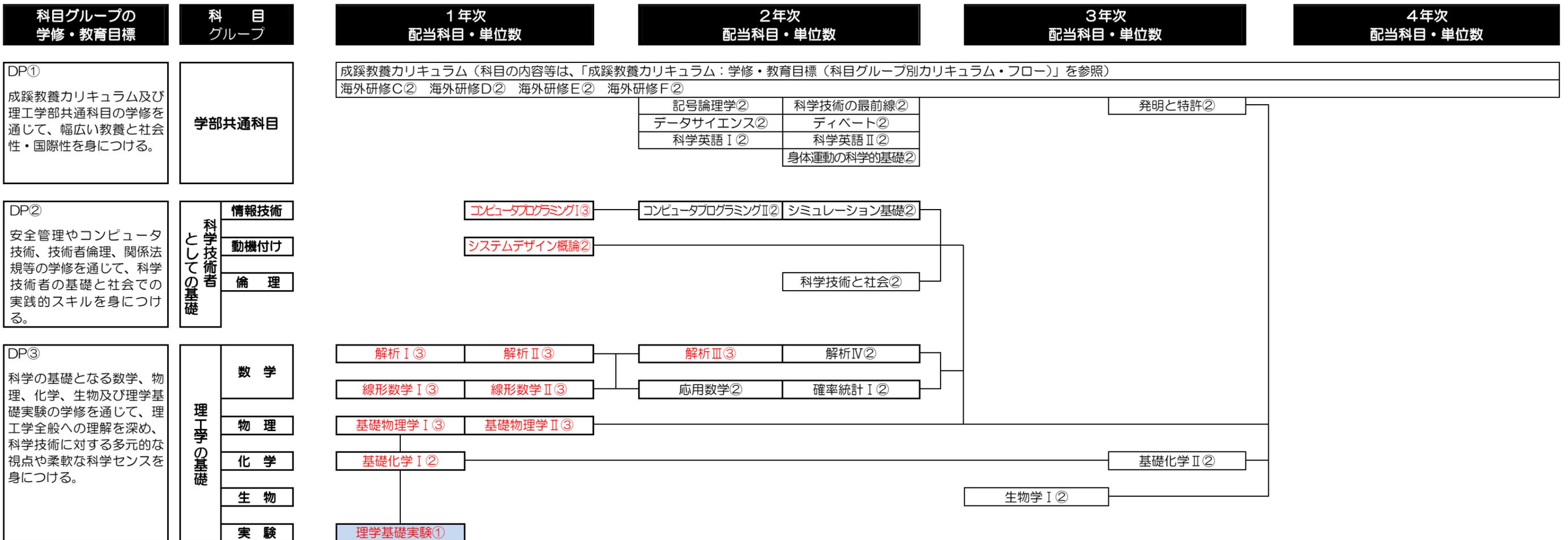
理工学部では、各学科、学年ごとに指導教授を配置するとともに、3年次後期から開講の実験・演習においては、各教員が少人数の学生を担当してきめ細かな教育指導を行っている。一つの学期中に、小試験、演習、レポートを積極的に取り入れ、また、授業における学生の質疑応答などを考慮した総合かつ厳正な評価を評価に基づいて単位の修得を認定している。卒業研究については研究発表会を開き、多数の教員が関与して単位の修得を認定し、幅広い教養と各学科の科学技術・基盤技術分野の専門知識を身につけた卒業生を送り出すべく質の確保に努めている。

このもとで、基礎科目から専門科目までを系統的に学ぶことにより、次に掲げる能力を有するとともに、これらの学修を通じて工学的手法に基づく高い「問題解決能力（実社会に溢れる解答が一つでない問題に対し解決策を自ら立案し、かつ、それを実現する能力）」を身につけた学生に、学士（工学）の学位を授与する。

- ① 成蹊教養カリキュラム及び理工学部共通科目の学修を通じて、幅広い教養と社会性・国際性を身につけている。
- ② 安全管理やコンピュータ技術、技術者倫理、関係法規等の学修を通じて、科学技術者の基礎と社会での実践的スキルを身につけている。
- ③ 科学の基礎となる数学、物理、化学、生物及び理学基礎実験の学修を通じて、理工学全般への理解を深め、科学技術に対する多面的な視点や柔軟な科学センスを身につけている。
- ④ システムデザイン学科として必要とする基礎的な知識と技法を身につけるとともに、テーマを絞ったより専門性の高いコースを体系的に学修することにより、社会での実践的知識を身につけている。
- ⑤ 各年次に担当された実験科目及び輪講、卒業研究への取組を通じて、知識基盤社会の進展に貢献しうる科学技術力、課題を発見し解決する能力、プレゼンテーション能力を身につけている。

※ 科目名が太枠で囲ってある科目は、必修科目（赤字）または準必修科目（黒字）を表す。

※ 4コース（「機械システムデザインコース」、「エレクトロニクスデザインコース」、「ロボティクスデザインコース」、「経営システムデザインコース」）において必要となる科目については、履修モデルを参照。



※ 実験系科目（輪講を含む）には、水色の網掛けを付している。

